

Re 
Life

ふくおかカイゴつながるプロジェクト

ReLife project



介護福祉士を目指す学生たちが
介護の魅力を発信する



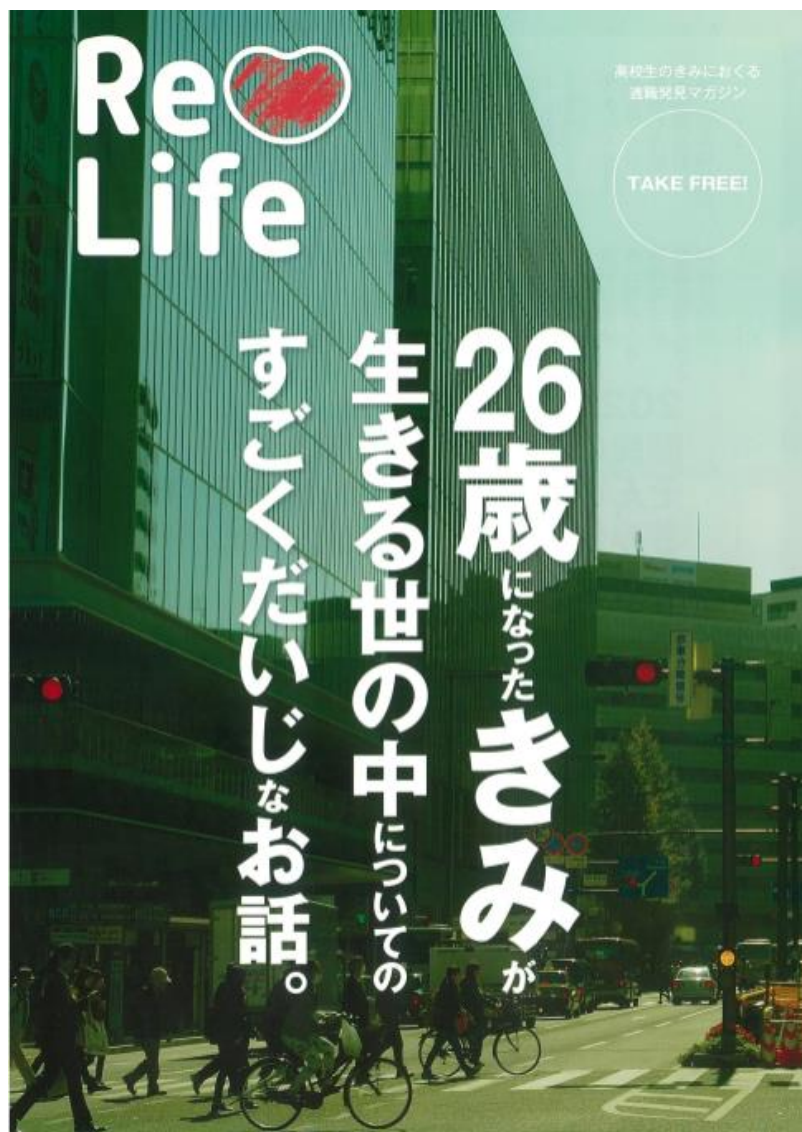
&LIFE ♥

ふだんの暮らしが、すこし暖かくなる

学生projectスタート
カイゴのスキルはカイゴの世界だけのものではない
ふだんのくらしが、カイゴのエッセンスを取り入れる
ことで、少し暖かくなります！

カイゴの魅力を探しに、先輩にインタビュー
をしました

Re♥
Life



この年、ReLifeという言葉が生まれました

2025年問題を自分事として考えてほしい。
そんな思いで、動き出しました。

ReLife



初の会場型イベント

カイゴの魅力を学生が
直接伝えたいという思いから、会場型に転換
初めてニュースに取り上げられました。



※今日感ニュースにて5分30秒の放送
(視聴率13.0%→約40万世帯が視聴)

Re Life

年をとっても、ハンデを負っても、自分らしく生きる。 介護とはその手助けであるべきだと、私たちは考えます。

加齢や障がいは決してマイナスではありません。あるがままの自分を受け入れ、ときには必要なサポートを受けながら、自分らしさを取り戻し、あるいは発見し、そして自分らしい幸せを積み上げていく。そんな人生の過ごし方があります。私たちはこの考え方を【Re Life】と名づけました。国民の3人に1人が高齢者という超・超高齢社会の到来はすぐそこ。介護や福祉の現場にもっと Re Life を知ってもらうために、福岡県内にある14の介護福祉士養成施設で学ぶ学生たちが立ち上がってくれました。一連の広報活動はすべてこの『Re Life 学生委員会』によるもの。もちろん、このイベントも学生委員会の企画です。介護・福祉分野に興味をお持ちの高校生のみならず、ぜひこの機会に Re Life にふれてみてください。

Re Life

01

映画『ケアニン』特別上映

【story】大森圭（男性・21）は新人の介護福祉士。高校卒業後、これといってやりたいことがなかった圭は、漠然とした理由で介護の専門学校へ入学。卒業後、圭が働くことになったのは、郊外にある小規模介護施設。認知症の高齢者たちと上手くコミュニケーションが取れず、悩

む日々が続くなか、圭が初めてメインで担当することになったのは、認知症の星川敬子79歳。先輩スタッフたちの協力もあり、少しずつ敬子との関係性を深めていく。「なんとなく」で始めた介護の仕事に、いつしか本気で向き合うようになっていく圭だったが…。



02

アーティスト「香川 裕光」氏による特別 LIVE

介護職員としての勤務経験もあるシンガーソングライター『香川 裕光』氏が来場。映画『ケアニン』の主題歌『星降る夜に』を歌い上げます。



03

現役介護福祉士「中浜 崇之」氏トークショー

現在現場職14年目。介護福祉士として社会福祉法人希桜会の理事兼施設長も務める。「介護を文化へ」をテーマに介護を様々な垣根を越えて対話する場『介護ラボしゅう』主宰。『NPO 法人 Ubdobe』の理事として福祉のポジティブな視点での発信と福祉の担い手の増加に向けて様々な活動を行っている。全国を舞台に講演活動や講師経験も多数。

04

最先端の介護技術
体験



05

「絵や写真で学ぶ介護」
(介護美術館)



06

介護の現場で
活躍する動物たち



中浜さん！

Re Life

"Re Life" episode

実習の1日目、施設の業務になかなか
入れなかった時、可愛い鹿児島弁で、
「焦らんでもいいよ、辛かったら私の所に
おいで。」と声を掛けてくれ、不安が
軽くなりました。

慰返しとしてその方のリハビリを計画させて
いただいた時、廊下でリハビリの準備を
して待っているご利用者さんの小さな背中
がありました。

その瞬間、涙がとまらず、もっと
たくさんの小さな背中を支えていきたい
と感じました。

本当に **い**温まる 仕事です。

学校名

学年



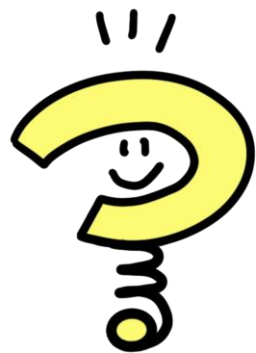
感動を呼んだコンテンツ
ReLife episode book
福岡県内84名の学生からのepisode

学生だからの視点で、カイゴへの思いを描きました。

ReLife



Relifeキャラクターが誕生



つながる元年

学生と介護現場

つながることで、大きな魅力を伝える力が生まれる可能性を感じました。



福岡市が昨年主催した介護啓発イベントでは、「注文をまちがえるめんたい屋さん」がオープン。店舗となるのは、市内の認知症カフェ。認知症の患者さんや家族、関係者などから、注文をまちがえるめんたい屋さんの魅力を伝える。市は週1回、月1回など時間を決めて定期的に開催する。店員は、店員の手を

認知症の人が接客

福岡市、定期開催へ担い手支援

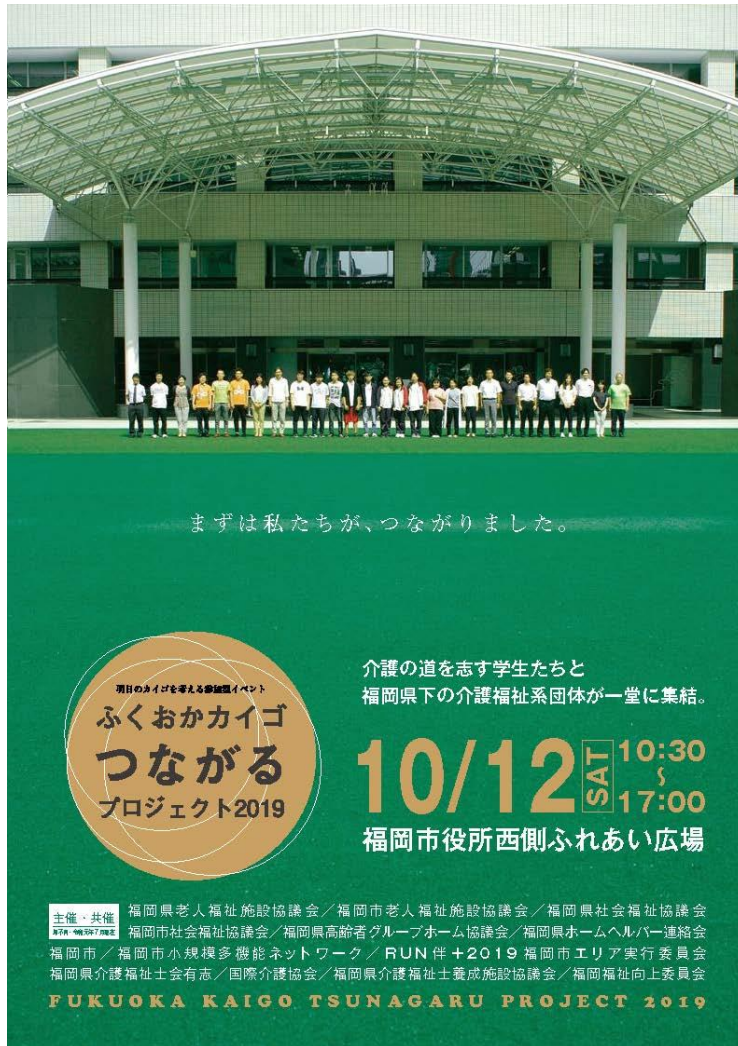
サポーター。市は14日発表した20年度当初予算案に事業費200万円を計上。飲食店に事業への協力を呼び掛けるほか、当事者や介護従事者に参加を呼び、認知症の人と店をつなぐ。市は認知症の啓発活動の一環として、認知症の人や家族が接客する飲食店「注文をまちがえるめんたい屋さん」を市内の認知症カフェで定期的に開催する。市は認知症の啓発活動の一環として、認知症の人や家族が接客する飲食店「注文をまちがえるめんたい屋さん」を市内の認知症カフェで定期的に開催する。市は認知症の啓発活動の一環として、認知症の人や家族が接客する飲食店「注文をまちがえるめんたい屋さん」を市内の認知症カフェで定期的に開催する。



カイゴmovementを巻き起こした
「注文をまちがえるめんたい屋さん」

認知症当事者と学生のかかわりが
カイゴの魅力を伝える力となりました。





もっと大きなつながるを！

9の団体が集い天神で魅力を発信

学生たちがアイデアを出し合い、10のブースは食あり、体験あり人気ブースでした。

荒天のなか、2,500人もの人が来場しました。



新型コロナウイルス 襲来

ふくおかイゴつながるプロジェクト 2020

当たり前の日常を届ける介護現場で働く人々。

今だからこそ、集えなくても、つながる意味がある。

介護現場で利用者に笑顔を日々届けている介護福祉士たちに、このコロナ禍を乗り越えるメッセージを届けましょう。